

映画のご紹介

「世界でいちばん美しい村」

平成 28 年度文部科学省選定映画
石川 梵 監督 / 2016 年 / 日本 / 108 分

ネパール大地震で壊滅した村が、悪戦苦闘しながら復興を果たそうとする姿を捉えた感動のドキュメンタリー。貧しくともいつも笑顔のアシュバドル一家、村を支える一人の看護婦、神秘的な風習、ヒマラヤの大自然を舞台に繰り広げられるさまざまな人間模様を捉える。

2015年4月25日M7.8のネパール大地震により300万人が被災し、9000人以上の人々が亡くなった。

日本人写真家・石川梵は、大地震の直後にネパール・カトマンズへ飛び、ジャーナリストとして初めて最も被害が深刻といわれるヒマラヤ山岳地帯の震源地へ向かった。ジープと徒歩で2日間、山道を開拓しながら辿り着いた震源地の村・ラブラックは、家屋がごとごとく破壊され、村は壊滅していた。カトマンズからの報道からは見えてこないネパール大地震の現実だった。

その村で石川は、ひとりの少年と出会う。澄んだ瞳をした、14歳の少年アシュバドル。少年と行動を共にするうちに、二人には友情が芽生えた。

別れ際、石川は、少年と二つの約束をした。ひとつは、この孤立した村の惨状を世界に伝えること。もうひとつは、必ず村に戻ってくること。

村に通い続け、支援と報道を続けるうちに、石川はあることに気づいた。この村は、世界で一番悲惨な村のように見えるが、実は、世界でいちばん美しい村かもしれない。

雄大なヒマラヤの大自然、その懐で慎ましく暮らす人々。こどもたちの輝く眼差しと明るい笑顔。貧しくも助け合って生きるアシュバドルの家族、そして折り...

石川は、復興に向けて懸命に生きる人々の姿を捉え、彼らの支援につなげたいという思いから、今回の映画制作を決意した。

(世界でいちばん美しい村公式ホームページより。https://himalaya-laparak.com/)



公式ホームページより アシュバドルと父親



ブルックリン国際映画祭(アメリカ)ほか ドキュメンタリー最優秀作品賞受賞作品

ウグン・ワンディ 監督 / 2004 年 / ブータン / 68 分

「思いを運ぶ手紙」

(原題: B Yi khel gi kawa ~ Price of Letter)

ブータン、標高4000メートルの山中にある人口1000人のリンシ村。ヒマラヤ山脈の奥地に位置し、未だに車が通れる道は開発されていない。放牧など昔ながらの暮らしがある小さなこの村に住むテンジンは、郵便配達員。26年間、徒歩で片道5日間、往復10日以上かかる首都・ティンブーへの厳しい山中を毎月往復し手紙を届けてきた。都市と村の両方を見てきた彼の思いとは・・・。



リンシ村の中心部 (2012年撮影)

●リンシ村の思い出

2012年7月、青年海外協力隊としてブータンのバロ県に配属されていたときに、夏休みを利用して12日間のヒマラヤトレッキングに出かけた思い出があります。

私の暮らすドゥゲル村から徒歩で5日、世界の秘境と言われるブータンの、さらに奥地にリンシ村はありました。

村の中心といっても、家はそれほど目立ちません。人々はこの広いヒマラヤ山中で放牧をしながら、ヤクを追って生活をしているのです。村には1件、電話局を兼ねた小さな郵便局がありました。その郵便局の可愛らしいポストから、日本の家族に宛てて葉書を投函してみました。

葉書が届いたのは、それから2か月後のことだったと聞きます。この映画の主役テンジンが、首都のティンブーまで、あの険しい山や谷、崖を超えて運んでくれたものかもしれません。あれから5年以上が経ち、リンシのことが夢か現実か分からなくなることがあります。しかしこの葉書の消印「Lingshi」の文字は、私が世界の秘境にいた瞬間を証明し、ここで感じたヒマラヤの冷たい風と草の匂いを、今もほのかに思い出させてくれます。

JICA長野県デスク 榎本智恵子



リンシ郵便局 (2012年撮影)



プログラム

- 12:30 開場
- 13:00 開会あいさつ
- 13:05 上映① 68分
「思いを運ぶ手紙」
- 14:15 休憩
- 14:30 パネルトーク
「持続可能な社会を考える」
- 15:10 休憩
- 15:20 上映② 108分
「世界でいちばん美しい村」
- 17:10 上映終了
アンケート回収

プレゼント
進呈!

※内容・時間は予告なく変更になることがあります。
★内容についてのお問い合わせは・・・
JICA 長野県デスク 026(235)7186

パネルトーク

「持続可能な社会を考える」 ～ほんとうの豊かさを捉えた国際協力とは～



ネパール・ブータンの元事務局長による2つの国の現状を伝えるパネルトーク。大地震の際に JICA ネパール事務所に対応にあたった経験や、東日本大震災時に JICA ブータン事務所へ訪れた一人の老人の心温まるエピソードなど、「国際協力の現場」の視点から、豊かさとは何か、日本の役割とは何かを問いかけてます。

パネラー
進行

- 清水 勉 JICA 駒ヶ根所長
元 JICA ネパール事務所長
- 仁田 知樹 JICA 北陸支部長
元 JICA ブータン事務所長
(前 JICA 駒ヶ根所長)
- 榎本 智恵子 JICA 長野県デスク国際協力推進員
元青年海外協力隊ブータン派遣

ヒマラヤ写真館

ネパール、ブータンを題材にする2人のプロカメラマンの写真を展示いたします。ファインダーを通して見える2つの国の、美しく幻想的な風景をご堪能ください。ホール入口・ホワイエにて。

直井 保彦 (なおい やすひこ)
東ティモール、フィリピン、ネパール等で撮影を続け、写真を通して、紛争やグローバル化の中で起きる格差の問題など、社会の影を訴えつつ、人々の持つパワーや力あふれる姿、残り続ける文化や暮らしをフィルムに収めている。9年前に名古屋から信州に移住。3児の父。半農半写真家として奮闘中。

關 健作 (せき けんさく)
写真家。1983年、千葉県に生まれる。2006年、順天堂大学・スポーツ健康科学部を卒業。2007年から3年間、青年海外協力隊隊員としてブータンの小中学校で教鞭をとる。現在、写真家の道を選び、ブータンで生きる人々をテーマに撮影している。APAアワード 2017 文部科学大臣賞受賞。

会場案内

長野市勤労者女性会館 しなのき

3階ホール(定員295席)

- 会場には駐車場がございません。公共交通機関をご利用になるか、近隣の有料駐車場をご利用ください。「しなのき」HPに駐車場案内が掲載されておりますのでご確認ください。
- 会場は自由席となっております。満席の場合、お立見になります。体の不自由な方や団体様もお席の確保をご希望の方は、1月15日までに JICA 長野県デスク (026-235-7186) へお名前と人数をお知らせください。(しなのきへご連絡されても対応ができません。)
- ホール内のご飲食はお控えください。ホール前のホワイエにてお願いいたします。
- 上映中に入退場は、鑑賞の妨げとならないようお静かに後方の4階出入口よりお願いいたします。

ご来場・会場のご案内

長野市大字鶴賀
西鶴賀 1481-1
TEL: 026-237-8300
http://shinanoki.org/

- 長野電鉄権堂駅下車徒歩2分
- 長電バス 権堂下車徒歩2分

